診療所だより

担当：大原診療所　医師　吉見 未祐

　こんにちは。西表島の東部に位置する、大原診療所の医師の吉見未祐と申します。今年で3年目の勤務となりました。

　西表島は人口2500人ですが面積は石垣島よりも大きく、豊かな自然で有名です。2021年7月には世界自然遺産に認定され、イリオモテヤマネコやカンムリワシ、アカショウビンをはじめ、たくさんの天然記念物に触れ合うことができます（筆者はまだ一度もイリオモテヤマネコを見たことがありませんが…）。自然を楽しみに来島する観光客もとても多く、観光業は盛んです。しかし、それと同じくらい盛んな産業があります。それは製糖業です。西表島の東部ではたくさんのサトウキビ畑が見られます。夏の青い空にたなびくサトウキビを見ると、どこからかザワワ～♪と聞こえてくる気がします。そんな島の風景を彩るサトウキビですが、11月頃にはきび刈りが始まります。いくつか方法はありますが、ハーベスターという機械で掘り起こした後に、人夫が鎌を使って余分な部分を落とす作業を行います。この作業を怠ると、黒糖の糖度が下がってしまうので、1本1本丁寧な作業が必要になるそうです。工場での製糖作業が始まるのは12月初旬で、4月～5月まで続きます。工場は24時間体制で稼働し、ひっきりなしに運ばれてくるサトウキビを黒糖に変えています。また、西表島の製糖工場で作られた黒糖は、和菓子の老舗『とらや』の羊羹に使われているため、なんと期間限定で製糖工場でとらやの羊羹が購入できます。

　西表島に住んで3年目になりますが、豊かな自然と暖かい人、独特な文化に囲まれて、時間が経てば経つほどにこの土地に魅了されています。是非一度遊びに来てみてください。

　写真は、地域行事の一環で、診療所スタッフと小学校の運動会で仮装してリレーをした時の写真です。2位でした。

病院からのお願い

　厚生労働省より、マスクの着用は2023年3月13日から個人の判断に委ねられることになりましたが、病院には免疫力の低下した方が多くいらっしゃいます。
　入館時にはひきつづき **マスク着用** と **手指消毒** をおねがいいたします。

やいまむん　沖縄県立八重山病院広報誌（令和五年6月発行）
発行 / 沖縄県立八重山病院
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院　広報委員会
〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557(代表) FAX:0980-87-5835

沖縄県立八重山病院広報誌

やいまむん

Vol.7
2023.6

・新院長、新副院長　就任挨拶
・2023年度　看護部紹介
・検査科の紹介 ～採血＆ＰＣＲ検査～
・診療所だより　（大原診療所）
・病院からのお願い

和氣院長、與那覇副院長 就任のご挨拶

院長　和氣 亨

ごあいさつ

このたび八重山病院第20代院長に就任しました和氣亨（わけとおる）と申します。前任地の南部医療センター・こども医療センターから、院長と副院長の二人それぞれ八重山への熱い想いをもって異動してまいりました。

私は、まだ駆け出しの内科医だったH3年に八重山病院に透析室を開設するため2年間勤務した経験があり、今回は30年ぶりの勤務となります。当時は透析患者が今ほど増えるとは思いもよりませんでした。今後透析患者受入れ枠を拡大するとともに、医師会の先生方や行政の方々と連携して、透析にならないための生活習慣病の治療普及にも取り組みたいと思います。

3年に及んだ新型コロナウィルス感染症も、5類感染症に移行することで行動制限も緩み、八重山病院でもこれまでの厳しい面会禁止から面会制限へと緩和されました。いま懸念されるのはこの3年間に、感染症を警戒するあまり健診を受けなかったり、異常を指摘されても病院受診を控えていた方がなかっただろうかということです。まずはかかりつけ医を受診してご相談いただき、必要とあれば病院へご紹介いただいてください。八重山の人々が健康に暮らしていけるよう、八重山病院はその理念「**地域と共に、八重山の医療を守ります**」の言葉の通り、地域の皆さまと共にあり、総合病院として全科をあげて安心で安全な最良の医療を持続的に提供するよう力を尽くします。

（執筆：令和5年4月）

副院長　與那覇 博康

７年ぶりの八重山病院赴任にあたって

私が最初にに八重山病院に赴任したのは平成10年のことです。当時は中部病院の外科の研修を経て外科医として赴任しました。

当時医師としても、人間としても未熟だった私は周囲の皆さんに多大なご迷惑をおかけしました。石垣での生活は楽しかったのですが、自分の未熟さゆえに不安を抱く毎日で、ご心配をかけることも多々ありました。そういう中で同僚や周囲の方々に暖かく見守っていただき、サポートしていただいたので、どうにか日々を乗り切ることができました。3月に退職された麻酔科の上原真人先生もその中の1人で、戦友ともいえる仲間であり恩人でもあります。

ただ、このような中でもやはり医師としての自分の実力に限界を感じ、一旦退職することにしました。その後は体調面を整えてから世界一周の旅にでかけ、そのなかで船医としての仕事も経験しました。これもいろんなエピソードがありますがそれはまたの機会にご紹介します。世界一周から帰ってきた後は屋久島にいったり、白神山地のマタギの家に世話になったりしている時に、当時の八重山病院の院長（元病院事業局長）の伊江朝次先生より連絡があり、西表の大原診療所の医師が急に不在になったため、次の医師が決まるまで診療所に勤務してくれないかと頼まれました。

私自身はもう県立病院につとめるつもりはなく、もし再び医療をするなら、統合医療をするつもりで漢方医学等の勉強をしていましたが。他ならぬ大恩ある伊江先生の頼みなので受けることにしました。

伊江先生はどんな時にも私のことを暖かく見守り、指導してくださいました。その恩はいくら返してもかえしきれないほどです。

このことがきっかけになり私はまた現代医療の現場に戻ってきました。しかし今度は外科医ではなく、離島代診や訪問診療をメインとする地域医療を行うことになりました。決して能動的な選択ではなかったのですが、やっているうちにこれが自分のライフワークと実感するようになりました。

その後はドクタープールといって県の代診業務をしながら、県立北部病院の業務応援もトータル1年ほどやりました。その後、伊江先生から事業局に来て医療企画監をやってみないかとのお誘いがあり、かなり迷いましたが、やるだけやってみようと思い医療企画監の職につきました。今までとは全く違う行政側の仕事でわからないことだらけで、戸惑いも大きかったのですが、いろんなことを学ぶ機会となりました。その後南部医療センター・こども医療センターの副院長との兼任を経て、センターの副院長に専念することになりました。

今回、前院長の篠﨑先生より八重山病院の副院長が不在だが来てもらえないかという打診があったときは、不安もありましたが、私を医師としても人間としても育ててくれた八重山病院に恩返しがしたいという気持ちが強く、喜んで承諾しました。

八重山病院はかかえる問題も多いですが、無限の伸びしろがある病院です。篠﨑前院長の意思を受け継いで、和氣院長とともに良い病院づくりをしていたきたいと思います。

「2023年度　看護部紹介」

看護部長　名嘉 律子

八重山病院看護部は「地域と共に八重山の医療を守ります」の病院理念のもと、地域の医療を担うため日々、医療の多様な変化に合わせ、常に努力し前に前にと歩んでおります。

特に私たち看護師の一人一人が中心となり、医師をはじめとした多職種と連携し、患者さんを第一に考えたチーム医療を支えていくことが重要だと考えます。

今年度もZ世代の新任者を迎え、ますますコミュニケーションが必要だと思う場面が多々ありますが、看護部の頼れる師長さんたちを中心に「発問」と「応答」のスキルを使いながら「働きやすく活気ある職場つくり」のため、さらに邁進していきます。

検査科の紹介　～採血＆PCR検査～

検査科　平良 匠

私たち検査科は、臨床検査技師16名、看護師2名、事務員2名、外注検査委託業者2名の計22名が配置されています。当科では、患者さんから採取された検体から生化学・血液・微生物などの項目を調べる検体検査や、心電図・脳波・超音波検査（エコー）などで患者さんの体を調べる生理機能検査を担っており、また、外来採血検査も行っています。

当科の外来採血検査は、看護師または臨床検査技師が担当しています。採血は患者さんの腕から穿刺する血管を探し、血液を採取する検査です。採血はスムーズに採取している様子を見ると簡単な手技に見えてしまいますが、患者さんごとに血管の走行が異なることや、同じ患者さんからの採血であっても、気温の低下により血管が細くなることで、採血が難しい場面も多々あります。また、採血検査を受ける患者さんが大人数いらっしゃると、採血をする順番が回ってくることが遅くなることも予想されます。そのため、採血や待ち時間を要する場合もあるとは思いますが、皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

検体検査では、患者さんから採取された検体からさまざまな検査項目を調べることができます。今ではよく耳にするようになったCOVID-19のPCR検査もそのひとつです。当科で実施するPCR検査は、主に患者さんから採取された鼻咽頭拭い液を細菌検査室で検査しています。PCR検査は2022年10月より導入した測定機器により、多数の検体を同時に検査することが可能となり、従来よりも迅速に検査結果報告を行えるようになりました。

当科では、患者さんの不安を和らげるため、安心安全な検査を実施するとともに、迅速かつ正確な結果報告ができるよう、尽力したいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

写真１.PCR検査作業の様子

写真２.外来採血の様子